

協力隊農園で定植

城 里

サツマイモとサカキ 桂中生と園児ら

城里町の基幹産業の農業に、関心を持ってもらおうと、同町上青山の協力隊農園で5月21日、サツマイモとサカキの定植が行われた。町立桂中の生徒となにかいこども園の園児ら計約50人が参加し、町地域おこし協力隊の指導を受けながら苗や苗木を植えた。

同農園は農業体験や食育活動を目的に荒廃農地を活用して2022年度に開設。これまでは協力隊がサツマイモを栽培していた。生徒や園児らとの定植は今回が初めて。サカキは、新規就農者が

選ぶ作物を模索する中で、町農業政策課が選定した。定植した品種は「八丈柿」で、葉の先端がとがっているのが特徴。関西や東京市場で一般的な品種で、日陰を好み収穫まで2〜3年かかる。町の特産品にしようとして試験的に植えた。町の気候、環境に適合するか調べる。

サカキの苗木50本は、細かい作業を伴うため生徒が定植。約500本用意したベニハルカの苗は園児と生徒で植えた。虫が付くサカキの消毒や水やりは今後、協力隊が行う。



同中2年の横倉嘉咲さん(13)は「農業の大切さや大変さを学んだ。どのように野菜を育てているのか知る

穫。生徒は町民祭の出し物で料理として提供を計画している。園児は給食で味わう予定だ。(高野祐一)

園児らにサツマイモの苗の植え方を教える生徒たち。城里町上青山

いばらきワイド